

林復齋 儒学者。ペリー来航時に林家11代当主となり、対外関係史料集「通航一覧」を作成、再来航には応接係に。

はやしぶくさい

本居宣長没・1801 = 江戸昌平覺で、林述齋の六男に生まれる。

船狼藉・1807 = 6歳：親族の林信隆の養子となり、

・・・・・・1810 = **9歳**：家督を継ぐ。

水野忠成老中1818 = 17歳：

群書類従完結1819 = **18歳**：

山田鳴滝塾1824 = 23歳：紅葉山文庫の書物奉行として勤務し、

「重訂御書籍來歴志」「重訂御書籍目録」などを編纂。

山田事件・1828 = **27歳**：

大塩平八郎乱1837 = **36歳**：

適塾オプン・1838 = 37歳：二ノ丸留守居に転じ、

以後、先手鉄砲頭、西丸留守居などを歴任、秀才で、能吏として知られ、併行して昌平覺の学問所御用も兼務、塾頭になっている。

阿部正弘首座1845 = 44歳：

孝明天皇・1846 = **45歳**：

ペリー来航・1853 = **54歳**：甥で本家を継いでいた林壮軒が死去したため、代って*林家11代当主となり、小姓組番頭次席、大学頭。ペリー来航で、世情が騒然とするなか、幕府に命ぜられて、織豊から徳川時代にかけての対外関係史料を国別・年代順に配列した史料集「通航一覧」(350巻)を編纂。各藩大名の歴史をまとめた「藩鑑」も編纂。両書を編纂した功績で賞賜される。

開国開港・1854 = 55歳：*ペリー艦隊が再来に、老中阿部正弘から任命されて、町奉行井戸覚弘とともに応接掛となり、漢文力を買われて、主な交渉はすべて任されることになる。すでに当時の諸外国の動静を理解していて、鎖国体制の現状維持は困難と考え、柔軟に対応するが、通商要求に関しては時期尚早として断固拒絶。

安政の大獄・1859 = 60歳：_没した。
交渉記録を、後に「墨夷応接録」(墨夷はアメリカのこと)にまとめ、